

おきみゆー通信

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum News Letter

vol.09

秋号



火焰型土器(新潟県十日町市笹山遺跡・十日町市博物館所蔵)

＼愛称がおきみゆーになりました！



沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

博物館 特別展

縄文と沖縄—火焰型土器のシンボリズムとヒスイの道

11/22(木) — 1/20(日)
2018 — 2019

博物館特別展示室1, 2 企画展示室
一般 1,100(880)円、高校・大学生 600(480)円、
小・中学生 300(240)円、小学生未満は無料
※()内は前売り及び20名以上の団体料金
※障がい者手帳をお持ちの方および
その介助者1名は当日料金の半額

まず今回の展示を企画したきっかけを
教えてください

縄文時代は約1万年間にわたって続いた
狩猟採集の時代で、特に火焰型土器や
遮光器土器に代表されるシンボリックな文
化が発達したことで知られています。沖縄
の貝塚時代に相当しますが、沖縄では漁
労を中心とした独自の文化が発達したこ
から、これまで縄文文化の影響は希薄だと
考えられてきました。

しかし、近年では沖縄でも縄目(縄文)の
ついた真正の縄文土器が発見され、北東
北の亀ヶ岡式土器の影響を受けた土器も
発見されています。また、縄文人が珍重し
たヒスイも、直線距離で約1500km離れた
糸魚川周辺からはるばる沖縄まで運ばれ
ていたことがわかっています。

火焰型土器は、雪深い新潟の信濃川中
流域で生み出された土器文化です。長い
冬の間、雪に閉ざされる世界に暮らした縄
文人と、南国特有の強烈な色彩に満ちあ
ふれた沖縄の先史人。彼らのシンボリズム
や世界観には、どのような共通性や違いが
あったのでしょうか。また、縄文時代の人々
は、なぜ、どのようにして1000kmを越えるよ
うな長距離ネットワークを作り上げたのでし
ょうか。

一見関係ないように見える縄文と沖縄で
すが、その背景には意外な共通性や類似点
があるのではないだろうか、と思っています。

人類学的な視点から、縄文時代における
沖縄先史時代の特長などを教えてください

3千5百年前頃の沖縄の遺跡から見つ

かる人骨は、九州以北の縄文人によく似た
特徴をもっていて、縄文人に多く見られる風
習的抜歯が見られる人骨もあります。当時
の沖縄は、文化的にも九州の縄文文化の
影響を強く受けていたことが知られていて、
九州産の黒曜石やヒスイが沖縄の島々にも
運び込まれていました。また、沖縄の土器が
鹿児島県の遺跡からも発見されています。
海を越えることは大変な難事業ですが、は
るか昔の人々も、果敢に海を越えて互いに
交流していたことがわかります。

沖縄には港川人がいましたが、縄文人が
製作・表現した土器類の様に、港川人も
表現した可能性はあるのでしょうか

縄文人は抽象的な文様を好んでいま
した。言葉遊びのように、シンボリックな文様を
生み出す創造性と文化を備えていたの
ではないかと思っています。港川人が発見された
港川遺跡からはそうしたシンボリックな遺物
は発見されていませんが、近隣のサキタリ
洞遺跡からは、約2万年前の精巧な貝製ビ
ーズが発見されています。美しい貝殻を組
み合わせて身を飾るこうした装飾品は、旧
石器人のシンボリズムを物語る貴重な遺物
です。港川人も、そうしたシンボリズムを持
ち合わせていたのではないのでしょうか。

本展の見どころを教えてください

本展では、火焰型土器に代表される縄
文土器の優品や、さまざまな顔をした土偶、
縄文人が珍重したヒスイの装飾品などを中
心に展示します。いずれも縄文人のシンボ
リズムや世界観を物語る貴重な遺物です。
ぜひご堪能ください。

「縄文と沖縄—火焰型土器のシンボリズムとヒスイの道」
の担当学芸員が展覧会の見どころと楽しみ方をご紹介します！



山崎 真治 学芸員

最後に展示資料のここを見て欲しいと
いう、担当者ならではの見方を教えてく
ださい

火焰型土器(表紙画像 参照)

燃えあがる炎のような造形と表現されま
すが、実際には炎の姿を模倣して製作され
たものではありません。火焰型土器は、器の
表面に粘土紐を貼り付ける技法が特異に
発達して生み出された造形物です。沖縄
の壺屋焼にもタックワサーという技法があ
りますが、それとよく似た技法で作られてい
ます。豪華な装飾が施されているため、特
別な用途に用いられたと思われがちです
が、実際には通常の煮炊きに用いられた日
常の器だったようです。縄文人はなぜこの
ような器を生み出したのでしょうか。ぜひ考
えてみてください。

ヒスイ

ヒスイというと緑色というイメージですが、
縄文時代には白みがかかったものが多く利
用されていました。ヒスイの産地は限られて
おり、縄文時代には新潟県糸魚川周辺の
ものが主に利用されていました。北陸のヒ
スイ海岸では、現在でもヒスイを探す人
の姿が多く見られます。ヒスイ海岸では美
しい石がたくさん拾えますが、本物のヒスイはご
くわずかです。ヒスイの目利きは非常に難
しいのですが、縄文人はきちんとヒスイを見
つけて利用していました。ヒスイは、縄文人が
作り出した一大ブランドと言えるでしょう。



ヒスイ大珠(新潟県長岡市巾道遺跡・長岡市立科学博物館所蔵)



MONGOL800 ga EXHIBITION

モンパチ展 in Okinawa = 20th Anniversary

10/6(土) — 11/5(月)
2018

博物館特別展示室1, 2 企画展示室
一般 1,200(1,000)円、高校・大学生 800(600)円、
小・中学生 400(300)円、小学生未満は無料
※()内は20名以上の団体料金
※障がい者手帳をお持ちの方およびその介助者1名は当日料金の半額
休館日:月曜日、10/9(火) ※ただし10/8(月・祝)、11/5(月)は開館
主 催:一般財団法人沖縄美ら島財団、株式会社ハイウェイブ

MONGOL800 キヨサクさんより、展覧会
に向けたメッセージが寄せられました。

本展を企画したきっかけについて
教えてください

結成20周年の節目もあり、モンパチとして
今までやった事のない企画を考えていま
した。漠然とですがライブやフェス以外、自分
たちの畑以外、ジャンル違いのフィールドで
何かしらアプローチできたらなあ。結成当
初からアルバムジャケットや、アーティスト写
真等、アートワークに関する全てを自ら手が
けていたので「個展」というキーワードも割
と早く出てきたのを覚えています。

儀間先生の版画をアートワークやアー
ティスト写真に使用した事に始まり、他にも、出
会ったタイミングや感性に惹かれオファーし
たアーティストに、アーティスト写真、イラスト
を描いてもらう事も、気が付けばお馴染み
になりつつ、原画も増えてきました。

音楽以外でも、モンパチを表現してきた
自負はありますので、そのアートワーク全般
をいつかはまとめてみたいと漠然と思っ
てはいましたが、まさか、「モンパチ展」の企
画、開催にまで漕ぎ着ける事ができるとは
思ってもみませんでした。県立博物館・美術
館の担当者、並びに関係者の皆様方には
感謝です。お互いに楽しみながら、今まで
にないものを企画しようと励んでいますの
で、とても楽しみです。

子どもの頃はどのように遊んでいましたか?
博物館などに行くことはありましたか?

気が付けば20年もの間、音楽を生業に
していますが、幼少期の自分は音楽はもち

ろん、国語も作詞はもちろん、作文が大の
苦手な子どもでした。強いて言えば「図工」
が大好き、得意って事くらいで、今思うと何
かしら物作りに興味、関心のある子どもだ
ったと思います。特に絵を描くのが好きで将
来は「漫画家」か「看板屋」になりたいと夢
描いていた事を考えると、現在もアートワ
ーク全般、グッズのデザイン監修まで手がけ
ているので、あながち道筋はブレてない気が
します。

物作りに興味ある子どもが、鉛筆や絵の
具ではなく楽器を持った事が分岐点だった
のか、未だに楽譜も読めませんが、五線譜
もキャンパスのような物だと解釈して自由気
まま自我流で音楽を作って20年経ち、今に
至ります。

沖縄を拠点に創作活動をされていること、
また沖縄の何気ない日常の中の、情景や
思いをテーマにした楽曲を発表されていま
すが、どのような背景があるのでしょうか

好きな風景や、生活の中で聞こえて来る
音、住む町、帰りの景色や匂い、くだらな
い話で盛り上がる仲間の声、交わすお酒と
好きなお店の好きな料理。自分の場合、自ら
感覚で触れ合ったものからしか直接的な
影響は受けていない、受けようがない気が
しています。それが安心する場所である
「沖縄」なのかもしれません。

興味、関心があるのも「沖縄」、テーマを
決めて表現する事は今までに一度もない
ので、自ずと自然に直結してしまう、というの

がしっくり当てはまる感じかもしれません。
ルーツやアイデンティティ、時事的な事柄
も含めて「沖縄」で生きる表現者としては、
切っても切れない、避けて通れない土台に
なってるからなのか、あまり深く考えてない
のも、1つの答えとさせて下さい。

本展の見どころを教えてください

かっよく言うとアートワークの原本や、20
年の活動を振り返るコーナーやアイデアの
根源に触れられる展示内容になると思いま
す。同じくらい無駄な部分も展示したいと考
えていますので、ほくそ笑んでもらいつつ、完
成品(音楽や、その他アートワーク)ができ
るまでの、細かなこだわりを楽しんでもらえ
たら嬉しいです。

最後に、展示会への誘いのメッセージ
をお願いします

音楽以外でも、モンパチを表現してきた
自負はありますので、もしかしら沖縄で生
まれ育った1バンドマンが20年続けて来た、
続けてこれた答えが垣間見れる事ができ
るかもしれません。とりあえず、くだらない
と思われがち部分を特に大事に20年活動
してきたモンパチの初個展を先ずは流し見
してもらい、同時に開催されている儀間比
呂志先生の個展に是非、足を運んで下さ
い。モンパチと儀間先生の繋がりの方が気
になってもらえたら幸いです。

モンパチ展でも遊びましょ〜。

この冬、おきみゅーで開催される企画展「新海誠展」。一足先に北九州市漫画ミュージアムに見に行ってきました!

新海誠展

『ほしのこえ』から『君の名は。』まで

12/18(火) — 2/3(日)
2018 — 2019

企画ギャラリー1-2

一般 1,200円(960円)、高校・大学生 800円(640円)、小・中学生 500円(400円)

※()内は前売り及び20名以上の団体料金

※障がい者手帳をお持ちの方およびその介助者1名は当日料金の半額

[前売ペア券]一般 1,800円、高校・大学生 1,200円

主催:一般財団法人沖縄美ら島財団、朝日新聞社



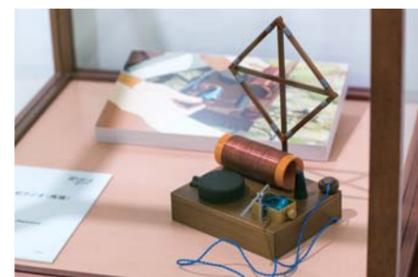
この日は夏休みということもあり、北九州市漫画ミュージアムは多くのお客さんで賑わっていました。見れば10代、20代を中心に若い人たちが多い様子。なかには年配のお客様の姿も見られ、新海誠作品が意外と幅広い世代の関心を引いていることがわかります。

本展は、新海誠監督の商業デビュー15年目を記念した全国巡回展です。「ほしのこえ」「雲のむこう、約束の場所」「秒速5センチメートル」「星を追う子ども」「言の葉の庭」「君の名は。」というオリジナル6作品を取り上げ、絵コンテや作画資料、映像展示などによって、制作の裏側に迫っています。もともとアニメスタジオ出身ではない新海監督が、デジタルツールを武器に単独で制作を始め、作品を重ねるごとに仲間を増やし、試行錯誤を繰り返しながらついにメジャー作品「君の名は。」を生み出すに至った軌跡を見ることができます。

展示の大部分を占めているのが作画資料なのですが、繊細でリアルな描写を特徴とする新海作品の手法を知ることができる興味深い資料でした。「雲のむこう、約束の場所」に出てくる「ヴェラシーラ」は想像上の飛行機ですが、細部設定がちゃんとあり、「燃料が他の部位に漏れないようにゴム

パッキングがしてあります」や「ヒンジを取り付けるために切り欠きがあります」など、素材や造りについて、細かい書き込みが読めます。また、「君の名は。」で三葉と四葉が舞う巫女舞。これは歌舞伎役者の中村壱太郎氏に創作してもらい、実演を撮影した映像を元に作画しているそうです! 糸守の言い伝えも含め、物語にリアリティがある理由です。その他にも、キャラクターの体格や服装、それから色彩についての設定資料もあり、見ていると、アニメ制作とは一つの世界を作るようなものだということがわかります。アニメーションにたずさわる魅力の一つは、そこにあるのでしょう。

精緻で美しい風景描写も新海作品の特徴の一つですが、こうした風景が、どのように生み出されているか知ることができる資料も展示されています。ありふれた道路脇やコンビニのある町角を撮影したロケハン



再現オブジェ「鉱石ラジオ」

写真。構図や描かれているモチーフはほとんど同じなのに、デジタルツールで描かれると、切なく美しい風景に生まれ変わります。比べてみると色彩や光の輝きが強調されて描かれていることがわかります。新海監督は「登場人物たちを美しい風景の中に置くことで『あなたも美しさの一部です』というふうに肯定する、それによって誰かが励まされてほしい」と語っており、技術と思想があって成立した描写であることがわかりました。

本展ではこの他にも、映画の主要な要素となる楽曲(山崎まさよしやRADWIMPSなど)や、作品のモチーフの再現造形物(鉱石ラジオ「星を追う子ども」や組紐台「君の名は。」)など、作画資料だけではなく多様な資料が展示されています。沖縄会場にもこれらがすべてやってきます。最先端のアニメ制作を知る機会としてほしいです。



取材に使われた「組紐台」

教育普及活動

今年もやりました! 「夏休み!こどもフェスタ2018」

博物館では学芸員が子どもたちに各分野の魅力を伝えながら夏休みの宿題に役立つヒントを伝える教室を、美術館ではアーティストや学生・教育普及担当者が静かな美術館をアートで賑やかにするプログラムを実施し、たくさんの作品がおきみゅーで生まれました。
来年の夏もおきみゅーでは、みんながワクワクするような企画を考えます! 乞うご期待♪



「神が宿る石勾玉を削り出そう」



「写生大会」



「チェンジー対決」



「龍を描こう」



ふれあい体験室からのお知らせ

スタッフが選ぶ!

ふれあい体験室の イチオシキット

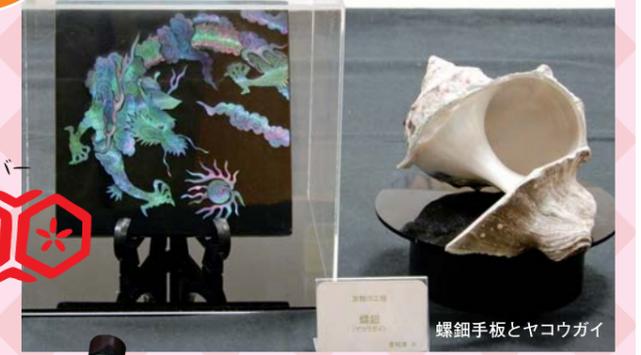
たいけん
体験キットナンバー



他の体験キットに比べてあんまり目立っていない...けれど本当はすごく魅力的! な体験キットを紹介します。

うるし
漆

No.23「漆」は、琉球漆器の加飾の技「沈金」「堆金」「螺鈿」について学べるキットです。中でもオススメなのが螺鈿のキット。螺鈿の魅力は、なんと言っても光や見る角度によって七色に輝くあの貝殻の美しさです。宝石のように美しいきらめきの正体はヤコウガイで、貝殻の内側のきらきらとした部分を薄く切り取って、漆器に貼り付けて飾り模様を作ります。職人の技・螺鈿について一緒に学んでみよう!



螺鈿手板とヤコウガイ



制作工程が学べる巻物

「おきみゅーでほうかご美術のきょうしつ」 はじめました!



みんなの作品

“絵を描くこと・工作が大好き”そんな小学生のために、この夏から美術の教室を開講しました。第1期は「わざをみがこう手のワーク」全4回(8~11月:毎月1回)描くことを中心としたプログラムを実施中です。初日の8/10は、家の形に切られた木時計のデザインに挑戦しました。子どもたちは最初、何を描こうか戸惑っていたもののイメージが膨らむと一転。手や服に絵の具がついていることにも気づかぬほど夢中になって筆を動かしました。完成作品も十人十色。太陽系をイメージした作品や夏休みにキャンプに行きたい気持ちを時計に表現した作品、大好きな小鳥のためのお家を表現した作品など、世界にたった一つの素敵な作品に仕上がりました。

第2期は「イメージをみがこう頭のワーク(12月~2019年3月)」と題し、絵本作りを通して想像する楽しさを伝える教室を予定しています。

ほうかごは、美術館で世界でたった一つのオリジナル作品を一緒につくろう♪

第2期の募集は、10月下旬~11月頃を予定。HPやチラシをチェックして☆

こんにちは♪ 沖縄県立博物館友の会です♪

沖縄県立博物館友の会(友の会)をご存知ですか? 友の会は博物館大好き! 沖縄の自然や歴史、文化に興味がある! という方が楽しめる場、また、博物館事業を支援する団体として1980年(昭和55年)に発足しました。

当初は30名に満たなかった会員数が今では400名近くに増えました。会員の皆様に支えられて毎年さまざまな企画を実施しています。

県内・県外研修や講演会、博物館常設展が無料など、他にも会員限定の楽しい企画や特典が満載です。会員の皆様には友の会通信「チャーびら」を隔月、会報誌「博友」を年1回お届けしています。

沖縄県立博物館友の会で楽しい時間を過ごしませんか?

入会をお待ちしております!

詳しい内容については友の会事務局にお問合せ下さい。

沖縄県立博物館友の会事務局 ☎098-868-2722
年会費: 一般 2,000円 家族会員 2,000円(二人目から一人 1,000円)



「長崎のキリスト教関連遺産とランタン祭り」
平成30年2月27日(火)~3月1日(木)



文化講演会「エイサーとは?」
平成29年9月10日(日)



沖縄県立博物館
友の会ロゴマーク



「とみくすく民俗探訪」
平成29年10月8日(日)

Museum 博物館

文化講座

無料

[各回共通] 時間 14:00~16:00 場所 講堂 定員 200名

10/20^土 孫億の絵画

講師 湊 信幸氏(東京国立博物館 客員研究員)

11/17^土 北東アジアの中世城郭

講師 白杵 勲氏(札幌学院大学 人文学部人間学 教授)

展示解説会

[各回共通] 時間 14:00~15:00 場所 博物館常設展示室
※当日有効の常設展観覧券が必要

10/11^土 民俗

講師 大湾 ゆかり

11/8^土 歴史

講師 外間 一先

12/13^土 歴史

講師 久部良 和子

バックヤードツアー

無料

[各回共通] 時間 14:00~15:00 集合場所 ふれあい体験室前 定員 12名
※当日9:00より総合案内で受付

10/27^土 美術
工芸

講師 園原 謙

11/24^土 歴史

講師 外間 一先

12/22^土 人類

講師 山崎 真治

「縄文と沖縄展」関連催事

11/24^土 シンポジウム
「縄文のシンボリズムとネットワーク」**無料**

時間 13:00~17:00(開場12:30) 場所 講堂 定員 200名

講師 西田 泰民氏(新潟県立歴史博物館)

根岸 洋氏(国際教養大学アジア地域研究連携機構)

新里 貴之氏(鹿児島大学埋蔵文化財調査センター)

山崎 真治

12/1^土 学芸員講座(人類)

無料

時間 14:00~16:00(開場13:30) 場所 博物館 講座室

定員 80名 講師 山崎 真治

※終了後に「縄文と沖縄展」の展示解説会を予定
(当日有効の「縄文と沖縄展」観覧券が必要)

12/15^土 体験学習教室/ワークショップ
「ドッキーをつくろう!!!」

時間 9:30~13:00 場所 博物館 実習室

定員 10名 講師 下島 綾美氏 参加費 500円(予定)

※対象は小学生以上

※小学生は保護者同伴で参加・未就学児はカウントせず同伴可能

※来館・電話にて11月13日(火)から受付開始、定員に達し次第受付終了

Art Museum 美術館

第2回 アートコンクール

無料

10/30^土~11/11^日 入賞者作品展示会

時間 開館時間に準ずる 場所 エントランスホール

美術館ミュージアムツアー

時間 10:30~12:00(10:25までに「美術館ホワイエ」集合)

11/3^土 定員 12名(事前申込制) 講師 富原 圭子

※来館・お電話にて催事の1ヵ月前から受付開始

「宮城健盛展」関連催事

10/13^土 記念シンポジウム+キュレータートーク

時間 14:00~(開場13:30) 場所 美術館講座室 定員 50名

講師 稲嶺 成祚氏(画家) 喜久村 徳男氏(画家) 梶原 正史

※キュレータートークご参加の方は、当日有効の「宮城健盛展」の観覧券が必要

「沖縄美術の流れ」関連催事

11/17^土 ギャラリートーク+学芸員講座

時間 14:00~15:30(開場13:30) 場所 美術館講座室

定員 50名 講師 西村 貞雄氏(彫刻家) 玉那覇 英人

※ギャラリートークご参加の方は、当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要

「儀間比呂志の世界展」関連催事

12/8^土 美術講座「儀間比呂志、絵本の魅力」**無料**

時間 14:00~15:30(開場13:30) 場所 美術館 講座室

定員 50名 講師 齋木 喜美子氏(関西学院大学 教育学部 教授)

12/22^土 キュレータートーク

時間 14:00~15:30(開場13:30)

場所 美術館講座室・コレクションギャラリー1・2 定員 50名

講師 豊見山 愛 ※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要

OKINAWAアートワークショップ

12/15^土 干支紅型でお正月仕度

時間 10:00~12:00 場所 県民アトリエ、こどもアトリエ

定員 20名(対象は5才~一般 ※未就学児は保護者同伴で参加)

講師 山城 信吾氏(城紅型染工房)

参加費 有料(干支マット1,700円、干支タペストリー3,500円)

Museum
博物館

「縄文と沖縄展」関連催事

12/15

博物館文化講座
「沖縄と縄文文化」

無料

時間 14:00～16:00 (開場13:30) 場所 講堂 定員 200名

講師 今村啓爾氏 (帝京大学)

12/1・22

展示解説会

[各回共通] 時間 11:00～12:00 ※当日有効の「縄文と沖縄展」観覧券が必要

場所 「縄文と沖縄展」展示室内 講師 山崎真治

ふれあい体験室ワークショップ

毎週土曜開催

ふれたい博士の
小さなアダン葉サバづくり

時間 1回目 10:00 2回目 11:00 ※所要時間45分

場所 エントランス 参加費 200円 対象 小1から大人まで

定員 当日先着20名 (各回10名) ※当日9:00よりふれあい体験室にて全ての回を受付

Art Museum
美術館

沖縄県立芸術大学によるミュージアムコンサート **無料**

時間 14:00～14:40 場所 エントランスホール

12/23日 出演者 沖縄県立芸術大学音楽学部

Okimū

[開館時間] 9:00～18:00 (金曜日・土曜日は20:00まで)
※入館は閉館30分前まで

[休館日] 月曜日 (月曜日が祝日にあたる場合は開館し、翌平日が休館)
年末年始休館 (12月29日～2019年1月3日)
※休館日は変更することがあります

[ホームページ] <https://okimu.jp>

編集後記 | 今夏は台風が多かったですね。にもかかわらず、「ティラノサウルス展」「ゲゲゲの人生展」には多くの方々にご来場いただきました。ありがとうございました!季節はめぐり「文化の秋」到来…。秋の夜長は、おきみゅーで展覧会鑑賞はいかがでしょう。金・土曜日は午後8時まで開館しています!展覧会やイベント盛りだくさん、五感で楽しむ秋を満喫していただきたい思いを込めて秋号をお届けします。(沖博子)

沖縄県立博物館・美術館 季刊誌

おきみゅー通信 vol.09 秋号

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 TEL 098-941-8200 (代表)

[発行日] 2018年10月10日

[編集・発行] 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者
一般財団法人 沖縄美ら島財団



11月3日(土)文化の日に
「おきみゅー誕生祭2018」の
開催が決定しました!

沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー)がおもろまちに誕生して11年。今年は「パン博物館(ミュージアム)&アートマーケット」を盛大に開催します♪

他にも音楽ライブや素敵な景品がもらえるスタンプラリー、豪華景品の当たる抽選会もありますよ～★

また、文化の日にならみ「博物館常設展」「美術館コレクション展」の観覧が無料となります(^_^)!

11/3は一日まるっと「おきみゅー」で楽しんでください～\(^o^)/

イベント詳細及び出店者情報は決まり次第、HPにアップしていきますのでお楽しみに♪